


～学びと育ちの連続性～

浦幌小中一貫CS便り

平成26年11月25日(No. 35)

浦幌町教育委員会
浦幌町教育研究所
上浦幌地区小中一貫コーディネーター委員会



いいなーと思った
ごろごろ図書館。
ごろごろできます☆



←小さなステージも併設されています。



平成26(2014)年6月26日(木)

習志野市立秋津小学校

- ・35年程前に東京湾を埋め立てられて出来た土地に団地や住宅が建てられ、それに伴って学校が建てられた。そのため、神社やお寺がない。
- ・同じ敷地内には幼稚園がある。もとは小学校の教室として使われていたが、現在は人数減のため空いている教室を地域の人に開放している教室が4部屋ほどある。学校の休業日は、開放スペースとの間にシャッターがおりるなど、セキュリティの面でも対策がされている。
- ・開校してから2年経って「お話し」というボランティアの読み聞かせの方が学校に来てくださるようになる。
- ・その他にも、ボランティアの人が入る事業がいくつか増えてきて、そのような地盤ができてきたところに文科省指定のコミュニティースクール事業に携わるようになり、本格的に取り組むようになった。
- ・埋め立てられてできたのは秋津小学校だけではないが、近くにある小学校はここまで地域の人が学校に協力してみんなで子どもを育てようという雰囲気ではない。秋津小学校はきっと、地域の人たちの意識が高かったのだろうということだ。
- ・CSの指定が入る前から「パートナー会議」というものがあり、そこでボランティアの人がどのように関わっていくのかや、どんな授業をするからどんな人が欲しいかなどの具体的な話が行われていた。指定が入ったときに「学校運営協議会」が立ち上げられたが、学校としても地域としても、この組織は、別になくとも困らないということだ。
- ・HPも大変充実しており、学校だよりやPTAだよりだけではなく、会議の議事録などもUPされている。それは運営協議会の会長さん(70近い方です)が更新してくださっているとのこと。
- ・空き教室を開放して、日中も地域の方が出入りしていることもあり、子どもたちもそれが普通の光景となっている。
- ・授業中に、その空き教室で行われているサークルの音楽が聞こえてきたりすることがあったり、放課後や中休みに、その教室に子どもたちが行って遊んだり(そういう組織があり「地域と遊ぼう!」という名前)することもできる。
- ・授業に入ってもらうのは、総合的な学習のみならず、音楽、国語、家庭科など、さまざまな教科において、補助してもらったり、ミニ演奏会をしてもらったりなど、形はさまざま。
- ・何年も継続して取り組んでいるものも多いので、そういうものに関しては、紙面でのやりとりもない。(新しいものに関しては、紙面でお願いの文書を作ったりした方が定着するだろうということだった。)
- ・学校運営協議会の役割の中に、教職員の人事に関する意見を教育委員会に伝えることができるというのがあった。要望としては、増員してほしいということが主であるが、なかなか要望は通らないのが現実だということだ。
- ・課題は、団地に住んでいた人たちの若い人は出て行き、残った人が高齢になってきたことによる高齢化。その影響もあって、1人のボランティアがいくつものボランティアも掛け持ちしているという現状もあるので、どう裾野を広げていくかというのが課題となっている。
- ・同じ敷地(校舎)内に地域の方がいる状態が多いので、ボランティアの人との打ち合わせやお願いなどがしやすいのはとてもいい。

秋津のボランティアのキャッチフレーズ

「できる人が、できるときに、無理なく、楽しく」

これが、継続していくための秘訣!

～学びと育ちの連続性～

浦幌小中一貫CS便り

平成 26 年 11 月 25 日 (NO. 36)

浦幌町教育委員会
浦幌町教育研究所
上浦幌地区小中一貫コーディネーター委員会

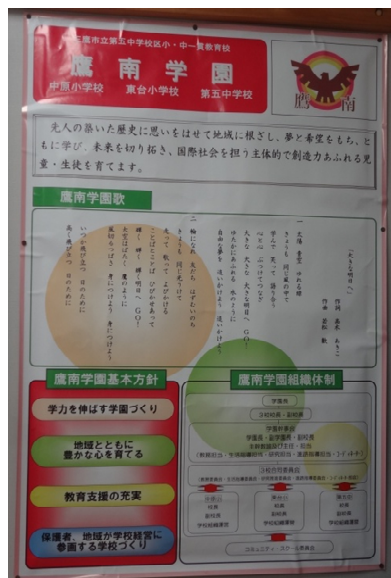


平成 26 (2 0 1 4) 年 6 月 2 7 日 (金)

三鷹市立東台小学校

- ・三鷹市にある学園の 1 つである「鷹南学園」は、東台小学校と中原小学校、第 5 中学校で成り立っている。小学校 2 校から、中学校 1 校へと進学。
- ・私立の中学校に行く子どもも多く、多いときは半分が私立へ行った年度もある。
- ・「CS 委員会」は学校経営方針を承認してもらう場。学園経営案もあり、それを受けて学校経営方針を作成し、CS 委員会で話し合いが行われるので、学校経営方針は前年度の 10 月頃から検討し始める。
- ・学校経営方針の検討は、委員の人もすごく大変。教員にとっては見慣れた文面でも、委員は教員以外の人も多いのでなかなか分かりづらい。なので、会議がある 10 日前には議案をもらって読んだりしなければならなかったりして大変。
- ・CS 委員会には人事権もあるが、要望としては、こういう人が欲しい、というのがあって、そして本人も行きたいという希望が合致すると、CS 委員会でハンコをもらうとほぼ確実にその学校へ来てもらえるというシステムもある
- ・考え方によっては、この人はダメだから...ということも可能性としてはあるが、今までにそういうことは一度もなかった。CS 委員会の委員長さんは、「学校の先生方は大変よくやってくださっていて、研究会だと色々な業務がある中で、すごく頑張ってくださっているのがとても見えるので、その方がダメだなんてそんなことは・・・」と言っていた。
- ・初めはCS 委員会の人数が多く、意見が言いにくいという意見もあったので、今は 1 校につき 6 名くらいずつで、学園全体では 18 ~ 21 名くらいの委員数となっている。そのため、話はしやすくなった。
- ・ほとんどは、PTA 会長などのように、役職で割り当てしている。公募はしていない。

- ・各校に SS 委員会 (学校ボランティアの会) というのが設置されている。サポート部会には、人材バンクのように、ボランティアのリストがある。CS が始まる以前からあったらしく、各校の SS 委員会を 1 つにまとめるということはしていない。
- ・こういう人を探しているといったときに、自分の学校のリストになれば、他の 2 校にも連絡して、来てもらえるように調整をする。ゲストティーチャー前は、何でもかんでもボランティアに入っていたこともあったら、今は内容を絞っている。
- ・CS 委員会と SS 委員会とは緩やかな連携をしている。CS 委員会があることで、交流をするようになったので、お互いの学校でどんなことをしているかが見えるようになった。それは教員が、ということではなく、地域の人たちが、ということ。
- ・乗り入れ授業については、小から中へ、中から小へというのがある。小学校 6 年生の算数に数学の教員が入ったり、中 1 の数学の授業に小学校のときの担任が入ったりが主。(教員には兼務発令が出されている。)
- ・小中一貫の補充教員というのがあり、学園に 1 人入っている。各学校 11 時間分あるので、中学校の教員が小学校へ行くとか、小学校の教員が中学校へ行くという際に残された学級にその教員が入るという体制をとっている。
- ・小中一貫をすすめる最初は、全員が乗り入れを行うことで教員の意識が高まると思うが、慣れてきたら人を固定化した方が、教育効果としては高まると思う。



～おわりに～

6 月に視察に行った 2 校のことを箇条書きでまとめました。見づらいところもありますが、説明して下さった内容がなるべくそのままの形でかつ分かりやすく伝わるといいな、と思っています。

(文責 甲谷聡枝)